

第4回唐津市公共施設再編審議会 会議録

1 開催日時

令和7年7月9日（水） 10:15～11:50まで

2 開催場所

唐津市役所4階 大会議室（北）

3 出席又は欠席した委員（☒が出席委員、☐が欠席委員を示す。）

☒池添委員 ☒谷口委員 ☒松尾委員 ☒平川委員 ☒吉田委員 ☒脇山委員

※参考

・事務局

草野総合政策部長、松尾行政マネジメント課長、桂行政マネジメント課係長

・提案部

楠田福祉こども部長、石田福祉こども部副部長、川口肥前市民センター長、
福浦高齢者支援課長、井上肥前市民センター地域支援グループ長、米福祉総務課
係長、濱中高齢者支援課係長、水田肥前市民センター地域支援グループ副グルー
プ長

4 議題

公共施設等総合管理計画及び公共施設再配置計画について

①令和7年度第1回公共施設再編推進委員会の結果概要

②肥前町福祉センター及び肥前町保健センターについて

③令和7年4月1日付機構改革等について

5 議事要旨

(1) まとめ

- ・肥前町福祉センターは建替えるが、併せて床面積の総量削減も図るという問題解決方法は妥当である。
- ・入浴施設以外の多機能な部分（多目的スペース）を魅力的なものにしていく方策と温泉の知名度を上げていく方策が必要である。
- ・付帯意見として、建替え施設は市民や地域の参画により構想し、長く使われ、地元の人に愛されるような、魅力を高めた施設として整備すること。

(2) 質疑意見等の概要（○＝委員発言、●＝提案課、▲＝事務局）

①令和7年度第1回公共施設再編推進委員会の結果概要

○（民営化を）やってみたが、やはりできなかったということはある。その場合には、皆で考えて、また良いものを造っていくという考え方には同意する。

②肥前町福祉センター及び肥前町保健センターについて

○肥前町福祉センターが福祉施設ということもあり、2回公募したが難しかったので、多機能な施設にしようとするのはよいと思っている。

○肥前町福祉センター近くの利用者の意見は市でまとめられているのか。

⇒●地域の人は、合併前から良質の温泉ということもあり、地域の宝として認識されている。また、公共施設が無くなることについての不安、皆さんが集まって交流する場について懸念を持っている。

⇒○温泉が人と人との交流のタネになっていることはあると思うが、温泉を抜きにして、地域からどのような声があったのか。

⇒●地域としては、災害時の避難所や地域の皆さんが集まって交流する場といった意味合いがあると思う。

⇒○多機能の施設になっていくということは良いことだと思っているが、どの程度の多機能が分からず質問している。

⇒●多機能については、様々な分野の機能が考えられるが、例えば避難所や行政の説明会の会場などでの利用が考えられる。今後の人口減少は止められないと考えており、（機能毎に個別に空間を確保するのではなく）多目的に使える空間を整備し、様々な形で利用できるようにしたいと考えている。

○スライド資料の P8 にある「主な導入機能」や P9 の 3 施設（肥前町福祉センター、肥前町老人憩の家、肥前町保健センター）の変更案は、現時点では市民や地域の人に公開されていないということでしょうか。

⇒●地区の区長や自治会の関係者など、肥前市民センターから方向性についての説明は行っている。

○高串地区は肥前町では最も人口が多く、小学校や児童館がなくなり、地域コミュニティの再構築を考えるとということは、行政として大変良いことだと思う。名称も老人・福祉センターとかではなく、もっと夢のある名称にしてもらいたい。また、高串温泉は国内でもかなり良い温泉であり、もっと宣伝して再出発が図れるようにしたらよいと思う。

○肥前町保健センターを機能集約するという説明だったが、北波多にも病院の近くに保健センターがある。保健センターの考え方を聴きたい。

⇒●浜玉町はひれふりランド内に、巖木町、相知町、北波多、肥前町にそれぞれ保健センターがあるが、再配置計画の全体的な方針としては市内にある健康サポートセンターさんてに集約していくことになっている。ただし、健康診断は、各地域の市民センターや公民館の一部を使い、引き続き地域で対応していく方向性となっている。

○肥前町保健センターは年間 7 回程度しか使われていないという説明だったが、建設当初から利用が少なかったのか。診察室などもあるが職員は常駐していないのか。

⇒●建設当時は十分使われていたと思うが、隣接する市民センターの大会議室の方が利用しやすいということもあり、現状はあまり使われていない。職員に

については常駐しておらず、必要なときだけ開けて使っている状況である。

○肥前町老人憩の家を公民館へ機能移転するという方針は、特定の世代に絞っていたサービスが全世帯を対象とするサービスになるということであり、市民にとってはとても良いことだと感じる。

⇒●公民館と併設するような形ではなく、老人憩の家で利用されていた活動を現在の公民館にある会議室で行っていただくことになる。

○公民館は社会教育施設であり、老人憩の家は福祉施設なので、管理区分が異なるように思うがその位置づけはどうなるのか。

⇒●老人憩の家は市町村合併前の旧町村と旧唐津市で扱いが違っている。旧唐津市では、例えば類似公民館の一部を老人会等が賃借して老人憩の家として使用し、市は賃料相当を支援している状況。旧町村の専用施設は無くしていき、老人憩の家で行っているソフト事業を公民館等に集約していくことを考えている。

○高串地区にあった肥前町老人憩の家がなくなり、入野地区の方に移るとなると地元から反対意見はなかったのか。

⇒●肥前町老人憩の家は、温泉入浴後のレクリエーションに使われているという現状である。改めて建替えした場合には、老人クラブ活動等は、多目的スペースを使ってもらって構わないと考えている。公民館でなければならないことは公民館で、建替え後の施設でできることは建替え後の施設でと考えている。

○多機能ということになると、様々な部署を跨ることになり、市役所としてどのようにガバナンスを効かせて運用していくことになるのか。福祉部門が他部署と連携して進めていくということか。

⇒▲浜玉のひれふりランド・中心部のりふれ・肥前町福祉センターを、市の東、中心部、西の3ブロックで福祉を提供する場として整備を行っていこうということで、柱の部分はあくまで福祉施設ということで整理させてもらいたいと考えている。ただし、地域の交流など多機能で使えるような形にはしていきたいと考えている。取組みを進めるうえで、福祉部門がグリップすることにはなるが、どのような施設とするかという検討の中では、総合政策部も公共施設再編や政策の担当部でもあることから、総合政策という観点から関与していく必要があると考えている。

○高串温泉は市外の人からの評価も非常に高い。建替えした場合にもっと多くの人に使ってもらうなら、市外の人にもっと来てもらう取組みが大事になると思う。また、1市民として地域のものを残して欲しいと思うなら、残して欲しい

けど知恵は出さないではなく、どう活用していくかは地域の人も考えるべきことで、利用者の増加策は地元の人にももっと考えてもらってよいと思う。

○建替えた場合、地域以外の利用を増やす方法をどうするかが大事である。また、具体的に整備を構想していく上で住民参加の機会を考えているかを確認したい。

⇒●肥前町福祉センターについては、要望書が提出されたので地区の区長代表や老人会などと昨年の8月に検討会を開催した。その中で、高串温泉は地域の宝である、交流の場として不可欠、公共サービスの空洞化に対する懸念などの意見があった。その中である程度考え方が固まったら、再度地域の人達と検討させてもらおうと説明している。

○地域の意見は、温浴施設を継続して欲しいという意見のように思う。新しい施設として整備されるならば、多機能という部分についても、地域の人がどのように使って行きたいと考えているかを盛り込んでいく必要がある。また、地域外から温泉施設としての評価が高いということであれば、地域外の利用を伸ばしていくこともあるが、観光的な側面も出てくるので、福祉施設という制限のなかで、うまく整合していかなければならなくなるだろうと思う。

○区長、地域外の人、若い人ではそれぞれ意見が大きく異なっている。影響力のある人だけではなく、関連のある人、使っていない人からもアイデアを出してもらったりして、物事を多角的に考えていくというのをやれたらよいと思う。また、フューチャーデザインという考え方もあるが、20～30年後に今の20代がどう使っていたいのか、そのような視点を少しずつでも取り入れていけると良いと思う。

○外から子ども、若者、女性を引っ張りこめるような考え方もあってよいと思う。老人施設を改築するという考えに固まらず、総合的にみんなで話し合って、よりよい施設をつくっていったほうがよいと思う。

⇒●いろいろな世代の意見も聴きながら進めていきたい。

○施設整備にあたり、床面積が増加するとなると公共施設再編としては問題があると思うが、肥前町福祉センターの982㎡に対して、建替え提案は560㎡であり、どのような理由で560㎡としたのか。

⇒●現状の浴槽と洗い場は約162㎡である。過去3年間の最多入館日におけるピーク時間帯（午後5時～午後7時）での算出では、浴槽と洗い場は現状程度でよいと考えている。一方で、内トイレがなく介助スペースが不足しているため、ロッカー・洗面台・内トイレを増やし、約162㎡→約200㎡必要と考えている。入浴後の休憩場所については約50㎡あることから、入浴機能部分は約250㎡を想定している。また、介護予防教室など多目的に使えるスペ

ースとしては、100 人規模のイベントを想定し約 150 m²必要と考えている。
その他供用部分や設備空間が約 160 m²必要になると考えており、合計で約
560 m²を想定している。

○肥前町保健センターは築 32 年で比較的新しい建物と思うが、機能集約した場合
に残った施設の活用予定はどうなるのか。

⇒●肥前町保健センターは電源立地交付金という財源で建てた施設であり、有償
貸付や売却した場合には、補助金の返還が出てくる。建物自体は、まだ使える
施設であるが、用途廃止した場合は普通財産となり、普通財産として活用
できなければ、市で解体することになる。用途廃止した施設の活用について
は、再度調査したうえで方針を考えていきたいと考えている。

○高串温泉は泉質が良く、これを無くしたくないといったことが発端になったと理
解している。床面積の適正化という議論があり安心したが、560 m²という規模に
ついては、今後の利活用・利便性・機能を踏まえて整理してもらいたいと思う。

○建替えをした場合、30 年～50 年と使って行くことになるが、温泉が出なくなっ
た時にどうするのか、水道水でやっていくのか、そういったことも整理して最終
案をつくってほしい。

③令和 7 年 4 月 1 日付機構改革等について

意見なし

④その他

○全国的に学校の閉校が進む中で、閉校した学校を活用している事例も多く見かけ
るので、全体的に考えていく必要があると思う。また、他市（深谷市、小松市）
では、マイナス入札という事例もある。市が解体費を含めて譲受者に金銭を支払
うことになるが、そこに民間施設ができれば、地域活性化にもつながり、税金も
入ってくる面白い考え方だと思う。

⇒▲閉校施設は規模が大きく、その後の利活用をどうするべきか検討はしてきた。
他の自治体ではホテルなどで活用した事例もあるが、事業者が赤字になって突
然撤退といった特殊事例もある。閉校施設のような大きな規模の建物を引き続
き維持していくべきか、解体した方がよいのか、あり方を総合的に検討してい
かなければならないとは思っている。

マイナス入札については、解体費も公共単価を使わなくてよいので、かなり安
くなるなど研究はしてきている。マイナス入札を活用できる施設があるかも含
め、引き続き研究を続けていきたい。

以上